

『アウシュヴィッツの真実』を伝える展覧会

— その時あなたは 武器を取りますか？ 筆を執りますか？ —

ユダヤ人絶滅収容所から奇跡的に生還した画家が伝える『アウシュヴィッツの真実』と
絶滅収容所に消えた 15000 人の子どもたちがひそかに描き残した絵と数編の詩—より

6月4日(土)~12日(日) 12:00~19:00 ギャラリーX_{カイ}

◆戦争は民から、家を、家族を、故郷を、国を、そして、命を奪います。第二次世界大戦ではナチス・ヒトラーによるユダヤ人迫害で、当時ヨーロッパ全域にいた 1100 万を超えるユダヤ人が難民となり、660 万人が飢餓や病苦、強制労働、そしてアウシュヴィッツ（ポーランド）をはじめとする絶滅収容所の餓死室で命を奪われた—その事実を伝えるのはドイツ軍が得意げに撮った写真しかありません。しかしここに、ポーランドのふたりの画家が解放後祈るように命を刻み込んで描いた画と、テレジン（旧チェコスロヴァキア）に収容された子どもたちが絶望の中でひそかに描いた絵と詩があります。

◆なぜ人が戦争をすることになるのか、なぜ人が人を殺せるのか、「日本の若い人々に伝えてほしい」と、画家たちから託された展示です。

原画・資料・写真/野村路子（作家） 企画構成/山崎園子



◆M・コシチエルニャック『鉄条網の向こう側の子どもたち』



絵《ちょうちょ》★ドリス・ヴァイゼロヴァー（1932年5月17日生まれ、1944年10月4日アウシュヴィッツへ）



- ◆ヤン・コムスキー『夜のパレード』(上)
ドイツ兵は強制労働への送迎を“パレード”と呼び、ドイツの行進曲をユダヤ人に演奏させ、死体を含め人数の確認をした。(画家から託された細密画複写写真 28 点)
- ◆メチスワフ・コシチエルニャック『コルベ神父』(左)
脱走した同胞の身代わりとなって餓死室へ送られたコルベ神父や地獄の日々を描いた 500 枚あまりを遺し 1993 年死亡。(未亡人より託された原画 19 点)

◆奇跡的に焼失を免れた 4000 枚の絵には、番号で呼ばれた子どもたちに先生が「あなたたちにはご両親からいただいた名前があるのよ」と呼びかけ記名され、生きた証となり戦後調査され実名が判明。(テレジン博物館より提供された原画複写写真 30 点)

★パヴェル・フリートマン(Pavel Fritman) 1944年6月29日アウシュヴィッツへ
1944年6月29日生まれ

詩『ちょうちょ』より
最後のほんとうに最後の蝶々
からやかに空高く舞い上がって行く
きつと世界にさよならのキスをしたくて
高く高く飛んで行くのだから

入場無料 資料代 500円



6月4日(土)、5日(日) 13:00~
ギャラリートーク
野村路子(作家・編集者・作品所持管理者)

主催/シアターX_{カイ} 助成/EU・ジャパンフェスト
後援/ポーランド共和国大使館、チェコセンター東京、墨田区



6月5日(日) 18:00

アート・カンファレンス

テーマ
死と対決して
“表現する”とは？

—東京大空襲と井上有一—

劇場 シアターX_{カイ}にて 参加費 1000円



海上雅臣
(美術批評家、ウチノクドウキョウ主宰、著書『権方志功・美術と人生』評伝井上有一など)



山崎園子(編集者)

